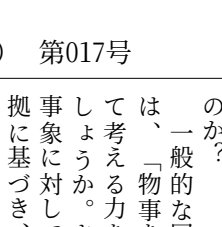

山學新聞
YAMAMURA GAKUEN
山村学園高等学校
〒350-1113　埼玉県川越市田町16-2
TEL.049-225-3565　FAX.049-222-5356
URL　http://www.yamamura.ac.jp/
編集発行／山村学園高等学校広報部

学校生活点描

平成23年度は4月6日に入学式が行われ、新入生331名を迎え、生徒数1,059名でスタートしました。入学後およそ3か月が過ぎ、ようやく学校生活も安定してきたようです。ここで1年生に現在の様子についていくつかの質問に答えてもらいました。
（6／18～20実施）

①本校に惹かれた理由は何ですか?

◇学校説明会に行ったとき、学校の雰囲気や先生、先輩方の優しさに惹かれました。この学校に入学すれば、たくさん良いことを学べると思いました。（SA女子）

◇学校全体の団結力や、先生と生徒が仲良く感じられたから。（文理男子）

◇山村にしかない7つの習慣Jと1年間の長期留学があるから。（選抜女子）

◇受験対策講座を受けられたり、自習室や進路資料室などの施設が整っていること。（総進女子）

②学校生活には慣れましたか?

◇だいぶ慣れました。でもまだ特別教室の場所など、校舎の位置を把握しきれていません。（SA女子）

◇まだ慣れていない。勉強がピンチ!（文理男子）

◇仲の良い友達もできて、クラスの雰囲気にもだいぶ慣れることができました。（選抜女子）

◇前期の中間テストが終わり、なんとなくテストの感じがわかってきたので、次の定期テストに向けて努力していきたいです。また、7月には実力テストもあるので、それに向けての勉強も効率よくやっていきたい。（総進女子）

③勉強は順調ですか?

◇中学の時に比べたら、すごく勉強するようになりました。予習や宿題は大変ですが、これからもっと頑張っていきたいと思っています。（SA女子）

◇もう少し頑張る必要がある。予習・復習と小テストを頑張らないと…（文理男子）

◇中間テストでは点数が悪かったので期末で頑張りたいです。（選抜女子）

◇はい。中学の時よりも毎日コツコツ勉強する習慣がつき、定期試験に成果が現れてきました。（総進女子）

④中学校と違う点は何ですか?

◇ほとんどの教科が習熟度別で授業を行っていること。先生がわかるまでとことん教えてくれることです。（SA女子）

◇テストのときだけでなく、毎日勉強しなければならない点です。（文理女子）

◇自販機があってパンなどが買える。自己責任が増えた。（選抜女子）

◇勉強が難しくなったり、部活が忙しくなったり少しずつ中学とは違う点がありますが、私が思う一番の違いは『あいさつ』を学校全体で活発にしようとしているところです。朝から休み時間、そして放課後まで一日中挨拶の連続で生活しています。（総進女子）

⑤部活動はどうですか?

◇とても楽しいです。友人との仲も深めることもできる、とても大切な場所になっています。（書道部）

◇前日の練習よりも何か進歩できるように取り組んでいる。（硬式野球部）

◇最初は勉強と両立できるかとっても不安だったけど、頑張れば両立できることがわかりました。（女子サッカー部）

◇試合が楽しく、練習はほとんど毎日なので充実している。（男子サッカー部）

部活動登録の様子(平成23年4月)

◇体の柔らかさや体力が必要なので、毎日ストレッチや柔軟、筋トレなどの基礎練習に励んでいます。大変なところもありますが、とても楽しい部活です。（バトン部）

◇先輩が厳しくて優しくて辛くて疲れるけどとても楽しいです。（ダンス部）

風評被害

校長　牧野彰吾

3月11日の東日本大震災は世界のニュースとなりました。特に原発事故に関わって諸外国の日本に示した反応がこれほどまで強かったことは未だかつてなかったのではないかと思います。

たちまち、おおぜいの外国人観光客が旅行を中断して一斉に帰国したり、多くの国が日本食品の輸入に対し厳しい規制をかけることになりました。放射能に関しては理解しにくいところがあり不安や恐ろしさが先立ちます。「マイクロシーベルト」も突然登場した単語でした。願わくは、放射能の何がどういうわけでどの程度に恐ろしいのかを承知して行動していただけたら今とは違った展開があったかもしれないと思っています。今回のことは日本の状況を十分に理解していないところに大きな原因があると言わなければならないでしょう。まさに「風評被害」です。

ところがこうした中にあって、4月27日、ドナルド・キーン氏のニュースが飛び込んできました。彼はアメリカのコロンビア大学の名誉教授で88歳。日本文学に精通する彼は、東日本大震災で大変心を痛め、日本への永住意志を固めました。「私が日本に永住することで日本が元気づいたらすばらしい。もう歳だから多くのことはできないが、できることをやって尽くそうと思う。」と語ったといいます。すでに帰化手続きが進行中です。日本をここまで愛してくれる人が海外にいることを知ってうれしく感じています。

6月上旬、多くの国がいまだに輸入規制を続ける中、カナダがいち早く日本食品の輸入規制を全面解除しました。このニュースは大きく報道されなかったのですが、風評をはねのけて適正な評価をしていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

さて「風評被害」という言葉、改めて考えてみると、うわさ(風評)で自分を縛りつけていることはないですか。周りの人が異口同音に「やってみたところで、どうせできっこない」と言えば「そうだよな」と納得してしまう現象です。本当はもっときちんとした取り組みをすれば別の展開があるかもしれないのにと思います。「できるわけがない」という「うわさ」に左右されず自分を適正に評価しようとする努力が必要です。

第1回球技大会

新学期が始まってまもなくの4月14日、川越運動公園総合体育館において、第1回球技大会が開催されました。1年生は宿泊研修中のため、2・3年生のみでしたが、新クラスとなって初めての学校行事ということもあり、みんな楽しく、そして白熱したゲームが展開されていました。

【リーグ優勝】

2年女子	
Aリーグ	2年6組
Bリーグ	2年9組
Cリーグ	2年11組
3年女子	
Aリーグ	3年13組
Bリーグ	3年6組
Cリーグ	3年11組
男子	
Dリーグ	2年8組
Eリーグ	2年5組
Fリーグ	3年1・2・3組（合同チーム）

自修自得

電車の中でのことです。とある駅で高校生らしき数人のグループが乗ってきました。「私、○○ができない人だから‥」そんな話し声が聞こえてきました。会話をリードしている子は、今風の口調で話し方も上手でした。しかしその内容は、私からすると、あまり褒められるものではありません。でも、その子がグループの中で一目置かれているのか、「私も、同じタイプ」「そう‥」とグループの皆は同意しながら話を盛り上げていました。確かにこのころは皆と同じような発言、行動、考え方をしようとするものです。特に小学生や中学生のころは「皆と同じになろう」とする気持ちが大きくなる時期です。皆と同じほうが、仲間意識が働き、安心するからです。同じだと、仲間同士という感じがして、喧嘩が減るような感じがしますよね。

しかし、本当にそうでしょうか?実は、逆なのです。皆が同じになってしまう方が、むしろ喧嘩や問題が増えてしまいます。例えば、あなたがAさんという異性を好きになったとします。皆が同じであれば、ほかの人たちも皆、Aさんを好きになってしまいます。Aさんを一人占めするために、みんなで奪い合うことになるかもしれません。この世は、多種多様な人たちがいて、全体としてうまく調和が取れています。あなたの「違い」も、全体が調和するために必要な「違い」なのです。人と違うことは、社会に出ればプラスになり、その人の強さになるものなのです。

先ほどのグループからこんな声が聞こえてきました。「どうせ、私はみんなと違うから‥」どうやら、考え方が合わない子がいるようです。この子はみんなと違うことを、よくないことのように思っているみたいです。しかし、そんなことはありません。みんなと違うことは、強みになるのです。何より、違う考え方が会話に入ることで、本当の意味で話は盛り上がるし、より正解に近い結論となるはずです。

高校時代は、人との違い「個性」を伸ばす時期です。みんなと違うようになるために必要なものは何か?それは学問です。さまざまな経験や体験から学ぶ、どうしてなんだろうと自ら問いを発してみることが必要なのです。

新入生宿泊研修会を終えて

入学後4月13日より15日まで、今年で40回目を迎える新入生宿泊研修会が箱根にて行われました。2泊3日の集団生活を通して必要なことをたくさん学び、現在の学校生活に活かしていることでしょう。ここで研修のまとめをいくつかご紹介します。

この3日間の箱根宿泊研修を終えて、僕は、『①勉強はとても大切』『②時間や規則を守ることはとても大切』『③友達はとても大切』という3つの大切なことを学べたと思います。自己学習の時間やその確認テストなどを通して、自己学習はすればする分だけ自分に返ってくることを改めて感じました。時間や規則を守ることは、集団生活をする中で1番大切なことではないかと思いました。ひとりが遅れて来たりルール違反をすることで、全体が迷惑するということをそれまでは考えていませんでしたが、今回の研修でその大切さを真剣に考えることができてすごく良い機会でした。研修中1番楽しく過ごせた時間は、友達と一緒に過ごせた時間です。食事をするとき、風呂に入るとき、部屋で過ごすとき、移動のとき、ハイキングのときなど、友達と過ごすことはやっぱり大切だし、同時に幸せなことなんだと実感しました。最初は全然知らない者同士だったにもかかわらず、この研修を通してクラス全員が仲良くなった気がしてすごく嬉しいです。以上の3つがこの研修で僕が学べたことです。この研修はこれからの3年間の基本となるようなことばかりで、とても充実した研修でした。この研修を活かしていけるように、高校生活を送りたいです。（選抜男子）

今回の研修会は、まだ入学して間もなかったせいで緊張していたけれど、多くの人たちと交わりを持つことができたのでとても良かったと思います。1日目はほとんど先生方の話を聞くことが多くてとても疲れたけれど、おかげで『聞く力』を鍛えることができました。その時は気づきませんでしたが、今振り返ってみるとたった3日間で多くのことを学べた気がします。2日目にあった歌唱発表では、練習のときは少し歌詞を覚えるのが大変だったり、大きな声を出すのがきつかったですが、最終的にはしっかりと歌詞を覚えて、さらに2位という結果を残すことができたのでとても良い思い出になりました。自由時間では、一つの部屋に大勢でトランプや雑談をしたりして、相手のことをよく知ることができました。一見ちょっと話しかけにくい人でも、実はとても親切で優しく接してくれたので嬉しかったです。最終日には英語のテストがあり、真剣に取り組むことができました。自分が予想していたよりも良い得点が取れたので良かったのですが、ここで油断しないように気を引き締めてこれからも勉強に取り組んでいきたいと思いました。この3日間、思い出してみるといろいろなことがあり、とても充実していたと思います。この研修会を通して学び知ったことを自分なりに活かしていきたいです。そして目標に向かって、一歩ずつ前進していけたらいいなと思います。（総進女子）

数学を“目安”として捉えてみる

「数学嫌いな人―？」クラスでこの質問をすると、半分以上の人が手をあげます。その理由としては、「何のために学ぶかがわからない」「知らなくても生きていける！」というのが多いです。そもそも、なぜ数学が必要なのか？

一般的な回答としては、「物事を筋道立てて考える力を養う」でしょうか。さまざまな事象に対して、ある根拠に基づき、演繹的に考えていく事は、まず必要なことのように思います、が…

これでは、いまいちピンと来ない…なぜ数学をやるのか…

私は『「現実」を知るために「理想」を学ぶ』ということだと考えます。これはあくまで持論ですが、今みなさんが生きている社会、これが「現実」でしょう。「現実」では、人間関係一つとっても、こうすればこうなるなんて決まっていません。正確に言えば、こうすればだいたいこうなるけど、ならないときがある。どれだけ仲の良い間柄でも、その日の体調や気分など些細な違いだけで、受け答えは日々変化するものです。失敗すれば、仲が悪くなることだってあります。逆に電車で乗り過ごした時、日常ではまったく接点のないような人と出会い、普段友達にも言えないようなことが言えてしまったり、たまたま居合わせたという事実だけで仲良くなって、友人になったりなんてことも現実だからあり得ます。そのような複雑で魅力的な世界がまさに「現実」だと思うのです。

それに対して、数学の世界はどうでしょうか。例えば、平行という言葉の定義は『1つの直線に対し垂直な2本の直線は平行である』

ですが、数学ではこの二つの直線は決して交わらないのです。

黒いものは黒いと数学の世界では絶対なのです。

色の話をすれば、「白」という色を知るためには「白」ということだけを知っていても本当の「白」はわからないものです。「黒」という相反するものがあり、それを知ることによって、初めて「白」がどれだけ白いかがわかるものです。だからこそ、そんな複雑な現実を生きていくために、数学という「理想」は私にとっていい〝目安〟になるのです。

数学をやる意味が分からない、数学が嫌い、と敬遠されがちですが、数学を一つの〝目安〟として捉えてみてはいかがでしょうか。

部活動報告

【硬式テニス部】

◇平成23年度関東高校テニス埼玉県予選

［シングルス］

準優勝　安野聡美（3年／鶴ヶ島市立南中）

他、ベスト16以上8名

［ダブルス］

優勝　佐藤麻由（2年／狭山市立東中）・高橋唯（1年／練馬区立大泉学園桜中）組

準優勝　山浦はる香（3年／狭山市立西中）・柳原涼（2年／練馬区立大泉学園桜中）組

第3位　安野（3年）・細川佑（3年／所沢市立向陽中）組

ベスト8　今田愛香（1年／足立区立第四中）・山浦優美（1年／狭山市立西中）組　小島友美（3年／上田市立第四中）・木賊萌（2年／練馬区立大泉学園桜中）組

◇平成23年度学校総合体育大会埼玉県予選会

［シングルス］

第3位　高橋（1年）　インターハイ出場

ベスト8　柳原（2年）・山浦ゆ（1年）

ベスト16　佐藤（2年）・山浦は（3年）・細川（3年）・今田（1年）・木賊（2年）

［ダブルス］

優勝　山浦は（3年）・柳原（2年）組

準優勝　佐藤（2年）・高橋（1年）組

以上、インターハイ出場

ベスト8　小島（3年）・木賊（2年）組　今田（1年）・山浦ゆ（1年）組

［団体戦］女子決勝

山村学園2－1浦和学院

優勝　インターハイ出場

【女子バスケットボール部】

◇平成23年度関東高等学校バスケットボール大会埼玉県予選会

優勝

◇平成23年度学校総合体育大会兼全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技埼玉県予選会

優勝　インターハイ出場

◎優秀選手賞　小澤早也香（3年／所沢市立山口中）・増岡加奈子（2年／入間市立金子中）

◎得点王　増岡加奈子（2年）

◇平成22年度バスケットボール女子U-18日本代表候補・平成23年度バスケットボール女子U-19日本代表候補選出

増岡加奈子（2年／左写真）

【バトン部】

◇USA Spirit Nationals in Japan 2011

ソングリーディング／ポン部門高校編成(Large)

第3位

◇全国高等学校ダンスドリル選手権大会関東大会

［ソングリーダー部門(Large編成)］

第2位

全国高等学校ダンスドリル選手権大会出場

［ミスダンスドリルチーム部門（ソロ）］

予選通過　槌屋睦（3年／ふじみ野市立大井東中）

全国高等学校ダンスドリル選手権大会出場

【ダンス部】

◇USA Spirit Nationals in Japan 2011

［Hip Hop部門(Large編成)］

第3位

◇全国高等学校ダンスドリル選手権大会関東大会

Hip Hop部門(Large編成)

第1位

全国高等学校ダンスドリル選手権大会出場

【少林寺拳法部】

◇第22回埼玉県高等学校少林寺拳法大会

［女子団体の部］　第1位

全国大会出場

［女子組演武の部］

第4位　土屋美咲（3年／三芳町立三芳東中）・五十嵐茜（3年／(旧)小川町立上野台中）組

関東大会出場

［男子単独の部］

第8位　大賀惟弘（3年／所沢市立三ヶ島中）

◇第42回関東高等学校少林寺拳法大会

［女子団体の部］　第5位

【ラクロス部】

◇第16回関東女子中高生ラクロスリーグ戦Teen's Cup 2011

準優勝

◎優秀選手賞　島村優里（3年／入間市立向原中）

◎ナイスファイト賞　上貴美佳（3年／嵐山町立菅谷中）

県大会出場

【陸上競技部】

［男子やり投げ］［女子やり投げ］［女子円盤投げ］

【卓球部】

［女子団体］

【バドミントン部】

［女子団体］［女子シングルス］［女子ダブルス］

【剣道部】

［女子団体］［女子個人］

【弓道部】

［女子個人］

【男子軟式テニス部】

［団体］

【女子サッカー部】

▼行事予定

- 7月7日(木)～11日(月)　前期期末考査［全学年］
- 7月13日(水)　実力試験［全学年］
- 7月14日(木)　薬物乱用防止講演会
- 7月20日(水)　終業日集会
- 7月21日(木)～25日(月)　受験対策講座　Ⅰ期
- 7月27日(水)～31日(日)　受験対策講座　Ⅱ期
- 8月2日(火)～16日(火)　ニュージーランド短期留学
- 8月2日(火)～6日(土)　受験対策講座　Ⅲ期
- 8月19日(金)　登校日
- 9月1日(木)　始業日集会
- 9月14日(水)　体育祭
- 9月17日(土)・18日(日)　ふじその祭
- 9月22日(木)　実力試験［3年］　スタディーサポート［1・2年］
- 10月1日(土)　前期終業式

オープンキャンパス・部活動体験　入試説明会・個別進学相談会

【オープンキャンパス】

8月20日(土)　9時～12時30分

【部活動体験】

8月21日(日)　9時～14時40分

【入試説明会】　予約不要

第1回　9月25日(日)

第2回　10月23日(日)

第3回　11月3日(祝・木)

第4回　11月20日(日)

第5回　11月27日(日)

第6回　12月18日(日)

すべて9時～12時

＊説明会終了後、個別進学相談会を行います。

【個別進学相談会】　要予約

第1回　10月15日(土)　14時～17時

第2回　11月12日(土)　14時～17時

第3回　12月10日(土)　14時～17時

第4回　12月23日(祝・金)　9時～12時

第5回　12月25日(日)　9時～12時

※1月・2月にもあり。